

山口県児童センター施設拠点 事業報告

当事業団の基本目標である「選ばれる施設づくり」及び「地域とともに歩む施設づくり」を推進するため、山口県児童センター施設拠点における 令和4年度の事業計画を定め、当該計画に基づき、適切な運営を図るとともに、法人理念である利用者の立場にたった「その人らしさを大切に」に沿ったサービスを提供しました。

I 選ばれる施設づくり

利用者や地域のニーズが高度化、多様化する中、山口県児童センターの特性を活かし、ニーズに沿った質の高いサービスを提供することにより、利用者、家族、地域社会から、信頼され選ばれる施設づくりを推進しました。

◎ 施設等運営の基本的考え方

1 令和4年度の運営方針

- 様々な年齢の子どもたちが多くの仲間とふれ合い、健全な遊びや多様な体験を通して交流を深めることができるよう、利用しやすい工夫を行いました。
- 本県における児童健全育成・子育て支援の拠点施設として、“その人らしさを大切に”の基本理念の下、「遊ぶ」「観る」「聴く」「創る」「集う」「学ぶ」の6分野にわたる取組を充実しました。
- 利用者の安心・安全の確保に努めました。

2 重点事業の推進に向けた具体的な取組

(1) 選ばれる施設づくりに向けた重点的取組

ア 令和4年度の取組目標

取組事項	目 標		備 考
	中期経営計画の最終目標	今年度の目標	
地域人財の確保と活用の促進	多様な人財による子育て支援体制の整備と児童健全育成・子育て支援の基盤強化	高齢者や子育て経験者、子どもが好きな学生等の掘り起こし及びボランティア募集	
魅力的なプログラム等の検討と児童健全育成関係職員の研修受講	職員の資質向上を図るとともに、魅力的なプログラム開発等により、多くの利用者に利用してもらえる魅力ある施設とする。	プログラム等の企画立案に携わる職員の児童健全育成に関する研修会への参加促進と、魅力的なプログラム等の検討	

イ 目標達成のための具体的な取組結果

- ① 「山口県高校生ボランティアバンク」の活用及び地域交流センターの協力を仰ぎながら、

近隣住民に行事への参加を働きかけます。

→高校生ボランティア60人のほか、大学生、短大生ボランティア30人を受け入れた。
そのうち、山口県立大学生には行事の企画、運営にも参画してもらった。

② ホームページ等を通して広くボランティア募集をします。

→行事ボランティアのほか、老人クラブや中学生、支援学校生による清掃ボランティアを受け入れた。

③ 6・7・9・10・11・12月児童厚生員・放課後児童健全育成関係職員等研修会に可能な限り職員が参加します。

→児童館長・児童厚生員等研修会に3名の職員が参加した。

④ 各種行事を見直し研修の内容や他県の活動を参考にしながら、子どもたちが生き生きと活動できる魅力的なプログラムを検討します。

→令和4年度より開始した平日定例行事の内容を検討し、令和5年度からは平日定例行事とは別に拡大版として週末にも開催をする予定。

3 中期資金計画への対応（令和4年度の取組）

(1) 収益の確保

プラネタリウムの利用者増を図るため、毎月の放映番組を利用者のニーズにあった構成になるように取り組みます。

⇒ 年間延べ25,000人の利用者を目標

→令和4年度：年間延べ14,391人

年度途中より感染症対策による規制を緩和したことにより、前年比160%の増加となった。

・5月 プラネタリウム番組選定委員会の開催

⇒ 利用者の方に喜んでもらえる魅力ある番組を、委員会で検討し選定します。

→令和4年5月11日に番組選定委員会を開催し、人気アニメーションのほか、小学生の社会見学での放映にも適した番組を選定した。

・季節ごとの放映番組の入れ替え

・6月 夏番組への入れ替え

・9月 秋番組への入れ替え

・11月 冬番組への入れ替え

・2月 春番組への入れ替え

(2) 支出の削減

○ 効率的な業務推進等を検討・実施し、時間外の削減を進めます。

→令和3年度の比べ時間外（時間数）をマイナス38%削減した。

○ エコアクションプランの目標達成に向けて、職員会議等で支出状況を共有し、光熱水費等の削減に努めます。

→光熱費の高騰により支出としては増加となった。

◎ 利用児等に対する基本姿勢等

1 利用児等に対する基本姿勢

利用児等に対するサービス提供の基本姿勢として次の目標に沿った取組を行いました。

取組項目	取り組むに当たっての目標
利用児等の尊重	
基本的人権への配慮	・子どもの意見の尊重、子どもの最善の利益の優先
利用児等の個人情報 の保護	・「個人情報保護規程」等の職員への周知と適正な取扱いの徹底
利用児等が意見を述べやすい体制の確保	
利用児等からの意見・ 要望への対応	・意見箱や行事時のアンケートの実施等による利用児、家族、団体 等の意見、要望の積極的な聴取 ・意見や要望の内容を関係職員間で共有し、所要の改善を図るなど の迅速な対応 ・対応結果の利用児、家族、団体等へのフィードバック
苦情解決の取組	・利用児、家族、地域住民等からの苦情解決に向けた迅速かつ的確 な対応 ・苦情受付から解決、改善までの経過や結果の記録 ・記録を通じた職員間での情報共有とサービス向上に向けた取組 の推進



目標達成のための具体的な取組実績（主なもの）

- 個人情報保護規程の研修
 - ・4月実施
→11月にコンプライアンス研修の一環として開催した。
- 意見等の収集手段確保の取組
 - ・団体利用者に対する追跡アンケート調査 定例行事利用者へのアンケート調査
→追跡アンケートは実施できなかったが、行事利用者へのアンケートは実施し、行事
内容の参考とした。

2 サービスの質の向上

サービスの質を確保し、その向上を図るため、以下の目標に沿った取組を進めました。

取組項目	取り組むに当たっての目標
サービスの質の向上	
子どもの立場に立っ たサービスの質の向 上に向けた取組	・世代を超えて受け継がれてきた伝承遊びなどの様々な遊び や体験を通して、子どもたちが心身ともに健やかに育つため の催し物の充実
イクメンプロジェク トの推進	・男性や祖父母等の子育てに向けた支援 ・育児参加のための動機付けや知識習得のための機会の提供

育児支援等に向けた相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師による健康チェックや相談の実施 ・栄養士による食育相談の実施
プラネタリウム番組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・番組選定委員会による魅力ある質の高い番組の提供
利用者満足度の向上	
「利用者満足度調査」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者満足度調査の実施と結果公表 ・全職員の結果の共有と意見、要望を踏まえたサービスの改善 ・調査票や実施方法等の必要に応じた見直し
サービス内容の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやSNS、情報誌等を活用した多様な媒体による幅広い世代への情報発信
施設利用の促進と環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の計画的な更新 ・安心安全の確保に向けた屋内外の環境整備
サービスの評価	
自己評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に自己評価を実施 ・必要に応じた評価項目等の見直し
サービスの適切な実施のための取組	
施設利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・祝日、8月の月曜日開館による利用促進 ・教育的役割の発揮



目標達成のための具体的な取組実績（主なもの）

○ 子どもの立場に立ったサービスの質の向上への取組

次の6分野の催し物の充実を図り、参加者の増を目指します。

分野	テーマ	催し物	参加目標 参加実績
遊ぶ	運動や遊び、親子のふれあいを通じた協調性や社会性、たくましさの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども青空わいわい広場 ・遊びの探検隊 他 	14,500名 1,416名
観る	紙芝居、人形劇、プラネタリウム等を通じた豊かな感情の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居がやってくる ・人形劇を楽しもう 他 	1,200名 551名
聴く	読み聞かせや音楽を通じた豊かな感性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーコンサート ・絵本の読み聞かせ 他 	3,000名 401名
創る	工作・実験教室、創作活動を通じた創造性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・できるかな ・しめ縄飾りを作ろう 他 	2,500名 466名
集う	異年齢児、多世代との触れ合いを通じた協調性や社会性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ in 大ホール ・ハイハイdeレース 他 	3,000名 1,591名
学ぶ	主体性を活かし自己決定しながら学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも絵描き上手 ・新春書初め大会 他 	1,700名 765名

○ **イクメンプロジェクトの推進**

- ・令和4年度 30回開催 目標 男性500名参加
→34回開催し、男性参加は493名であった。

○ **相談支援**

- ・保健師及び栄養士による育児及び食育相談の実施 目標 相談件数 500件/年
→保健師27回260件、栄養士11回43件の相談があった。

○ **プラネタリウム番組の充実**

- ⇒ 目標 年間利用者数 25,000名
→年間14,391名の利用者数であった。

【令和4年度の放映番組】

「ポケットモンスターオーロラからのメッセージ」「ジュラシックヒーローズ」他
(番組入替まで)

→番組入替後の放映番組

「クレヨンしんちゃん星空と学校の七不思議だゾ!」「エコとロジエのわくわく太陽系めぐり」「アステリアと星の道しるべ」他

○ **利用者満足度調査** 8月実施

- 8月19日～9月9日の期間にて、プラネタリウム観覧者、行事等施設利用者に対して実施した。

○ **自己評価** 10月実施

- 10月に実施した。

3 利用者の安全確保とリスク対策

利用者の安全の確保と様々なリスクに適切に対応するため、以下の目標に沿った取組を進めました。

取組項目	取り組むに当たっての目標
利用者の安全確保	
施設・設備の点検及び修繕等	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外のリスクの高い箇所の定期的な点検 ・腐食劣化等が懸念される設備や多用される設備等の日常点検の徹底 ・点検の結果、建物や設備等に異常を発見した場合には、速やかな修繕等
危機管理	
災害(火災、自然災害)	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画や防災マニュアルに沿った体制整備や訓練の実施

等に係る対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画及び防災マニュアルの見直し（随時） ・事業継続計画（BCP）に基づく備蓄等の平常時の措置と計画の見直し ・災害時の「事業団施設間相互支援実施要領」に基づく対応
不審者対応の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・「不審者対応マニュアル」に基づく訓練等の実施 ・当該マニュアルの見直し ・防犯カメラの設置や活用を通じた防犯対策の徹底 ・不審者情報を察知した場合の職員間の情報共有や警察署等と連携した的確な対応
感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に対する感染予防及び感染拡大防止対策の実施 ・利用者の安心安全の確保 ・職員の健康管理、感染予防の徹底



目標達成のための具体的な取組実績（主なもの）

- 施設・設備の点検及び修繕等
 - ・日常点検
 - ・定期点検 3か月に1回
 - ・遊具の日常点検 毎朝
 - ・専門業者による定期点検 毎年1回
 - 専門業者による点検は7月12日に実施。その他の点検は計画通りに実施した。
- 災害（火災、自然災害）等に係る対策の充実
 - 毎月1回 避難誘導訓練を実施します。 ⇒ 消防訓練（5月、11月、12月予定）
 - 5月、11月に総合防災訓練を実施。その他の月は避難誘導訓練を実施した。
- 不審者対応の徹底
 - ・不審者対応マニュアルに沿った研修の実施
 - 11月9日不審者侵入事件を受けて防犯カメラを増設した。
 - 併せて職員会議にて「さすまた」の使い方についての研修を行った。
- 感染症対策
 - ・3密の回避対策の徹底
 - ・館内の消毒の徹底
 - ・遊具の抗菌対応の実施
 - ・玩具等の消毒の徹底、抗菌対応の実施
 - 感染症対策については全国児童館連絡協議会が示した指針のとおり実施した。

II 地域とともに歩む施設づくり

地域との連携を深めていくため、「ともに歩む」視点を大切に、地域における様々な福祉課題、生活課題に主体的に関わるなど、施設にとっても、地域にとっても有益となる取組を推進しました。

1 地域共生社会の実現に向けた役割発揮

(1) 地域における公益的な取組

社会福祉法人の責務である地域における公益的な取組として、次の取組を進めました。

【令和4年度の取組】

- 保健師による無料相談事業の実施（子育てに関する様々な相談に対応）
⇒ 毎月第2、第3、第4火曜日 9時30分～11時30分
→27回実施し260件の相談を受け付けた。
- 栄養士による無料相談事業の実施（子どもの栄養や食育などの相談に対応）
⇒ 毎月1回（第1火曜日） 9時30分～11時30分
→11回実施し43件の相談を受け付けた。
- 地域の子どもたちや子育てサークル、障害児等の交流を目的としたふれあい事業の開催
⇒ 年2回開催
→コロナ禍であり、障害児等との交流は図れなかったが、子育てサークルが行う演奏会には、多くの利用者が参加し、交流を図ることができた。

(2) その他の取組

取組項目	取り組むに当たっての目標
関係機関・団体等とのネットワークづくり	・行政機関や関係団体などと緊密な連携を図ることによりネットワークを構築 ・関係機関や団体との協働による児童健全育成の課題解決に向けた取組
福祉人財の育成	・研修会等の開催による児童館職員等の資質の向上
地域貢献活動の取組 (公益的活動を除く)	・青少年の福祉教育推進のための職場体験学習の実施 ・利用者の交流機会と発表の場の提供 ・地域の子育て支援に資するための出前講座の実施



目標達成のための具体的な取組実績（主なもの）

○ 福祉人財の育成

- ・児童館館長・児童厚生員等研修会 6・10・12月開催 参加者 90名
→延べ127名が参加した。
- ・放課後児童健全育成関係職員等研修会 6・7・9・11月開催 参加者 200名
→延べ181名が参加した。
- ・研修内容の課題の洗い出しと見直し 研修受講者へのアンケート調査
→研修後アンケートを実施した。

○ 地域貢献活動の取組

- ・職場体験学習 児童館 随時開催 受入れ 8名
→公務員専門学校生1名を受け入れた。
- ・ファミリーコンサート 7月開催予定 参加予定者 150名
→感染症を理由とした延期により、10月に開催。52名が参加した。

2 地域交流の推進

地域との相互交流機会を拡大するため、次の取組を進めました。

取組項目	取り組むに当たっての目標
地域住民の施設拠点の行事等への受入れと地域の行事・イベントへの参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の児童センターの行事等への積極的な受入れ ・地域社会の一員として地域での行事やイベント等に積極的に参画 ・利用者や児童センター職員による地域でのボランティア活動への積極的な参加 ・山口県地域連絡協議会（母親クラブ）との連携
ボランティアの計画的な受入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な媒体（広報誌やSNS等）を活用した新規ボランティアの募集 ・社会福祉協議会が開催するボランティア研修会への会場提供などの連携 ・市町のボランティアセンターや「山口県高校生ボランティアバンク」等との連携
施設・設備等の開放	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催される子育て等の講習会等への専門職員の派遣 ・地域の人々の、児童センターの行事やボランティア活動への積極的な受入れ



目標達成のための具体的な取組実績（主なもの）

○ 地域との相互交流機会の拡大

5月に児童福祉月間関連の行事を行い、親子や地域との交流を深めます。

目標：参加予定者 1,500名

→期間内8回の行事を行い、1,105名が参加した。

○ ボランティアの計画的な受入れ

- 地域の高齢者や子育て経験者等の協力者の拡大に向けて、近隣の自治会等へ働きかけます。

- 各種ボランティアをSNS等を利用して幅広く募集

- こども青空わいわい広場、遊びの探検隊等 高校生ボランティア等10名程度

→行事講師、高校生、大学生、短大生の行事ボランティアのほか、中学校、支援学校、老人クラブの清掃ボランティアを延べ555名受け入れた。

○ 施設・設備や専門的機能の開放

子育て支援に関する講習会に職員を派遣します。

目標：2名派遣

→コロナ禍によりニーズがないことなどから実績なしとなった。